



子供たちに、自分の事は差し引いて、スポーツの道は肩を壊すかもしれないけれど、勉強してもあんまり頭を壊す奴は聞いたことはないので、勉強した方がいいのではないかと話したことがあります。

私は教育とは、親の一つの願いとも考えます。

生命保険は、大いに相続とも係ることが多いのですが、教育とは、例えば、多くの資産を子供に、お金として残すことより、教育として、子供たちに生きる力を与え、備えることを優先することであり、伝えていく事かと思えます。

時代も変化しています。大卒の価値観が変わってきているとも思えます。

ボーダーレスのもの、ブランド化されるもの様々です。

貴方が、そして子供たちがどう生きるか？

子供たちには、なにより幸せになって欲しい。幸せに生きてほしい。私たちの国が資本主義の国である以上、資金計画として学資は生きる力を伝えるメッセージと言えるかも知れませんが。しかし、時代は貯蓄から投資の時代へと移っていると思います。

何故なら 超低金利・マイナス金利・限りない程の赤字国債、物価の上昇など・・・長期的資金計画を考える学資保険も商品としての価値も疑わしい時代になってしまったのかも知れません。

今、何が起きているかと言えば、低金利によって、銀行が保険を売る時代になっています。自己運営するより保険販売手数料が勝る時代です。

近年話題となったピケティ理論を改めて考えてみると、「働いて得るお金より、運用で得る利益が勝る」資本家と労働者の経済格差が問題であると提起しています。

働くよりお金を働かせる？ では、なんのために働くのでしょうか？

欧米では、この問いに「自己実現の追求」という答えが上位に来るそうです。

では 日本はと言うと「食べるため」という答えが最も多いそうです。

これで幸せな先進国と言えるのでしょうか？

働く意味とは その人その人の与えられた能力を使って、人を幸せにする喜びを得る事でありたいと思います。

その幸せを求めて、子供たちには成長して行って欲しいと思います。また伝えなくてはならないと思います。